II. 調査結果の概要

II. 調査結果の概要

A あなた自身について

●年齢【問1】

- ・「70代以上」が最も高く、次いで「60代」、「40代」となっています。
- ・「60代」と「70代以上」で、回答者の約5割を占めています。

●性別【問2】

- ・「女性」が57.3%、「男性」が42.1%と、女性の方が高くなっています。

●配偶者（パートナー）の有無【問3】

- ・「結婚している」が最も高く、次いで「結婚していない」となっています。
- ・男女ともに、「結婚していない」は、「10代」、「20代」で高く、「70代以上」を除く他の年代で、女性より男性の未婚率が高くなっています。

●同居者の家族構成【問4】

- ・「配偶者（パートナー）と子ども（2世代）」が最も高く、次いで「配偶者（パートナー）のみ」となっています。

●同居している一番下の子どもの年代【問5】

- ・「子どもはいない」が最も高く、次いで「社会人」となっています。

●就労形態【問6】

- ・女性は「専業主婦・主夫」が、男性は「正社員・正職員」が、それぞれ最も高くなっています。

●配偶者（パートナー）の就労形態【問7】

- ・女性にとっての配偶者（パートナー）は「正社員・正職員」が、男性にとっての配偶者（パートナー）は「専業主婦・主夫」が、それぞれ最も高くなっています。

●年収（（1）あなたの年収、（2）配偶者（パートナー）の年収）【問8】

（1）あなたの年収

- ・女性は「103万円未満」が最も高く、次いで「収入はない」となっています。男性は「200万円～300万円未満」が最も高く、次いで「500万円～1,000万円未満」となっています。

（2）配偶者（パートナー）の年収

- ・女性にとっての配偶者（パートナー）は、「500万円～1,000万円未満」が最も高く、次いで「200万円～300万円」となっています。男性にとっての配偶者（パートナー）は、「103万円未満」が最も高く、次いで「収入はない」となっています。

B 男女平等に関する意識について

●様々な場面での男女平等に対する評価（①～⑧）【問9】

- ・『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた値）は、「⑥社会通念・慣習・しきたりなどでは」が最も高く、次いで「④政治の場では」となっています。
- ・すべての場面において、男女ともに『男性優遇』が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた値）より高くなっています。
- ・「平等である」は、「③学校教育の場では」が最も高く、次いで「①家庭の場では」、「⑦地域活動の場では」、「⑤法律や制度の上では」となっています。
- ・前回調査と比較すると、『男性優遇』が、「①家庭の場では」、「②職場では」、「⑥社会通念・慣習・しきたりなどでは」において、それぞれ減少していますが、他の場面については、前回とほぼ同様の結果となっています。
- ・大阪府調査をみると、男女ともに『男性優遇』が『女性優遇』を上回っており、また、場面別にみると「社会通念・慣習・しきたりなどで」や「政治の場で」において、『男性優遇』の割合が高く、本市と同様の結果となっています。また、「平等である」についても、「学校教育の場で」の割合が最も高く、本市と同様の結果となっています。

●男女共同参画社会づくりに関する言葉の認知状況（①～⑫）【問10】

- ・『知っている』（「内容まで知っている」と「言葉は聞いたことがある」を合わせた値）は、「⑩セクシュアル・ハラスメント」が最も高く、次いで「③男女雇用機会均等法」、「⑤ストーカー規制法」となっています。
- ・「知らない」は、「⑥ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」が最も高く、次いで「⑪ジェンダー」、「⑫性的マイノリティ」となっています。

●性別で役割を固定した考え方【問11】

- ・「同感しない」が最も高く、次いで「どちらともいえない」となっています。
- ・「同感しない」は、女性が51.4%に対し、男性が38.7%と女性が男性を上回っています。
- ・前回調査と比較すると、「同感しない」は、女性が5.2ポイント増加し、男性は1.8ポイント減少しています。
- ・配偶者の有無別にみると、男女ともに、「同感しない」は、「結婚している」人に比べ、「結婚していない」人が上回っています。
- ・職業別にみると、「同感しない」は、女性は「契約社員や派遣社員」が、男性は「学生」が、それぞれ最も高くなっています。
- ・収入別にみると、女性は収入が高くなるにつれて、「同感しない」と答えた割合が高くなる傾向があり、男性はすべての区分において、「同感しない」が約3～4割となっています。

●性別で役割を固定した考え方に同感しない理由【問11-1】

- ・「男女がともに働き、ともに家事・子育てをするのは当然だから」が最も高く、次いで「性別によって役割を固定するのはおかしいから」となっています。

●性別で役割を固定した考え方に同感する理由【問 11-2】

- ・「男性は仕事に、女性は家事・子育てに向いているから」が最も高く、次いで「役割を分担するほうが効率がよいから」となっています。

●男女のあり方に関する考え方（①～⑦）【問 12】

- ・『同感する』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた値）は、「④男性も子育てや介護にかかわり、家庭と仕事の両立を図るようにした方がよい」が最も高く、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」、「⑤妻や子を養うのは「男の責任である」、「⑦子どもが3歳くらいまでは母親が子育てする方がよい」においても、それぞれ高くなっています。
- ・すべての項目において、『同感する』が『同感しない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた値）を上回っています。

●性別を理由とする不合理な扱いなどの経験【問 13】

- ・「受けたことがある」と答えた人は、全体の約1割で、女性が16.7%に対し、男性は8.1%と、女性は男性の約2倍となっています。
- ・「受けたことがある」は、女性では「50代」、男性では「20代」が、それぞれ最も高くなっています。

C 家庭生活について

●あなたが家事をする時間【問 14】

- ・「3時間以上」が最も高く、次いで「15分未満」、「1時間～2時間未満」となっています。
- ・女性は「3時間以上」と「2時間～3時間未満」が高いのに対し、男性は「15分未満」が最も高くなっています。
- ・配偶者（パートナー）がおられる方の家事をする時間は、女性は「3時間以上」、男性は「15分未満」が、それぞれ最も高くなっており、配偶者の有無に関わらず、家事をする時間については性別による大きな差異があります。

●配偶者（パートナー）が家事をする時間【問 15】

- ・「15分未満」が最も高く、次いで「3時間以上」となっています。
- ・女性にとっての配偶者（パートナー）は「15分未満」が、男性にとっての配偶者（パートナー）は「3時間以上」が、それぞれ最も高くなっています。

●家庭における家事などの主な担当（①～⑨）【問 16】

- ・『妻が担当』（「すべて妻が担当」と「主に妻が担当」を合わせた値）は、「②掃除・洗濯をする」、「③食事の支度をする」、「④日々の家計を管理する」といった日常生活における家事の項目が高くなっています。
- ・『夫が担当』（「すべて夫が担当」と「主に夫が担当」を合わせた値）は、「①家計における主な収入を得ている」、「⑧高額な買い物の決定をする」、「⑨地域活動へ参加する」が高くなっています。

- ・前回調査と比較すると、「①家計における主な収入を得ている」は、『夫が担当』が減少していますが、「②掃除・洗濯をする」、「③食事の支度をする」、「④日々の家計を管理する」は、『妻が担当』が減少しており、全体的にみて、『妻が担当』の割合が前回よりも低くなっています。

●自宅での主な介護者【問 17】

- ・「自分」が最も高く、次いで「配偶者（パートナー）」となっています。
- ・女性は「自分」が、男性は「配偶者（パートナー）」が、それぞれ最も高くなっています。

●問 17 以外の自宅での主な介護者【問 17-1】

- ・「ほかに介護をしている人（することになると思う人）はいない」が最も高く、次いで「配偶者（パートナー）」となっています。
- ・女性は「配偶者（パートナー）」が、男性は「ほかに介護をしている人（することになると思う人）はいない」が、それぞれ最も高くなっています。

●人生を楽しく過ごすために心がけていること【問 18】

- ・「できるだけ自分のことは自分でする」が最も高く、次いで「健康に気を配り、体力づくりをする」となっています。
- ・女性は「できるだけ自分のことは自分でする」が、男性は「健康に気を配り、体力づくりをする」が、それぞれ最も高くなっています。

D 子育て・教育について

●子どもに望む最終学歴（（1）女の子の場合、（2）男の子の場合）【問 19】

（1）女の子の場合

- ・「大学」が最も高く、次いで「短期大学・高等専門学校」となっています。

（2）男の子の場合

- ・「大学」が最も高く、次いで「大学院」となっています。

●子どもに望む生き方【問 20】

（1）女の子の場合

- ・「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が最も高く、次いで「本人の意思に任せる」となっています。

（2）男の子の場合

- ・「経済的に自立した生活をする」が最も高く、次いで「本人の意思に任せる」となっています。

●学校の中で男女平等を推進していくために必要だと思うこと【問 21】

- ・「進路指導や職業観の育成について、性別による区別なく能力を生かせるよう配慮する」が最も高く、次いで「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす（児童・生徒会長などのリーダー的役割は男の子で、女の子は補佐役など）」が高くなっており、いずれも女性が男性を上回っています。

E 就労について

●女性が仕事に就くことへの考え【問 22】

- ・「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」となっており、いずれも女性が男性を上回っています。

●実際の女性の働き方【問 23】

- ・「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をしている（続けていた／続けるつもり）」が最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事をしている（続けていた／続けるつもり）」となっています。

●収入を得る仕事に就いていない理由【問 24】

- ・「定年退職をした」が最も高く、次いで「家事・子育てに忙しい」となっています。
- ・「自分（配偶者（パートナー））にあう条件の仕事がない（時間・賃金・年齢など）」、「働かなくても生活できる」については、いずれも女性が男性を上回っています。

●職場で悩んでいることや不安なこと【問 25】

- ・「賃金が低い」、「特にない」、「休暇がとりにくい」が高く、性別による大きな差異はありません。

●職場以外で悩んでいることや不安なこと【問 26】

- ・「特にない」が最も高く、次いで「自分や家族の健康状態」となっており、いずれも男性が女性を上回っています。
- ・「家事の負担」については、女性が男性を大きく上回っています。

●男女が対等に働くために必要だと思うこと【問 27】

- ・「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」が最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気醸成」となっています。

F 仕事と生活の調和について

●生活の中で優先すること（（1）希望、（2）現実（現状））【問 28】

- ・希望では、『「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい』が最も高いのに対し、現実（現状）では『「仕事」を優先している』が最も高く、希望と現実（現状）にギャップが生じています。
- ・男女ともに、『「個人の生活」を優先したい（している）』は2番目に高く、希望と現実（現状）が合致しています。

●男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加していくために必要だと思うこと【問 29】

- ・「夫婦の間に家事などの分担をするように十分話し合うこと」が最も高く、次いで「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会における意識を高めること」となっています。

G あらゆる暴力について

●DVの経験（（1）あなたがされたこと、（2）あなたがしたこと）【問 30】

（1）あなたがされたこと

- ・DVを「されたことがある」女性は29.3%で、「されたことがある」男性は16.1%と、女性が男性を大きく上回っています。
- ・「されたこと」は、男女ともに「大声でどなられた」、「傷つくような言葉、人格を否定されるような言葉など、人権を侵害することを言われた」が高く、ほぼすべての項目において、女性が男性を上回っています。

（2）あなたがしたこと

- ・DVを「したことがある」女性は19.9%で、「したことがある」男性は24.0%と、男性が女性を上回っています。
- ・「したこと」は、女性では「大声でどなった」、「何を言われても長時間無視し続けた」、男性では「大声でどなった」、「ものを投げた」が高く、ほぼすべての項目において、男性が女性を上回っています。

●DVを受けたときの対処方法【問 30-1】

- ・「我慢した」が最も高く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」となっています。

●誰にも相談しなかった理由【問 30-2】

- ・「相談しても無駄だと思った」が最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといった」となっています。

●デートDVの経験（（1）あなたがされたこと、（2）あなたがしたこと）【問 31】

（1）あなたがされたこと

- ・デートDVを「されたことがある」女性は7.0%で、「されたことがある」男性は3.4%と、女性が男性を上回っています。
- ・「されたこと」は、女性では「大声でどなられた」、「殴る、ける、突き飛ばす、引きずり回すなどの暴力をふるわれた」、男性では「大声でどなられた」、「傷つくような言葉、人格を否定されるような言葉など、人権を侵害することを言われた」が高く、「何を言っても長時間無視し続けられた」を除く他の項目において、女性が男性を上回っています。

(2) あなたがしたこと

- ・デートDVを「したことがある」女性は2.7%で、「したことがある」男性は4.0%と、男性が女性を上回っています。
- ・「したことは」、女性では「大声でどなった」、「ものを投げた」、「何を言われても長時間無視し続けた」、男性では「大声でどなった」、「何を言われても長時間無視し続けた」が高くなっています。

●デートDVを受けたときの対処方法【問31-1】

- ・「我慢した」が最も高く、次いで「友人や知人に相談した」・「どこ（だれ）にも相談しなかった」となっています。

●どこ（だれ）にも相談しなかった理由【問31-2】

- ・「相談しても無駄だと思った」が最も高く、「相談するほどのことではないと思った」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」となっています。

●DVの相談窓口の認知状況【問32】

- ・「警察」が最も高く、次いで「市役所などの相談窓口」、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）」となっています。

●セクシュアル・ハラスメントを受けた経験【問33】

- ・「受けたことはない」が62.9%と最も高く、「無回答」22.3%を除く14.8%が、セクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答しています。
- ・女性は、「さわる、抱きつくなど肉体的な接触を受けた」、「性的な冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられた」が高く、男性は「身体をじろじろ見られたり、容姿のことを話題にされた」、「性的な冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられた」が高くなっています。

●女性に対する暴力をなくすために必要だと思うこと【問34】

- ・「子どもの頃から、学校における人権教育（男女平等、DV、からだと心を大切にすることについての教育など）を充実させる」が最も高く、次いで「子どもの頃から、家庭における人権教育（男女平等、DV、からだと心を大切にすることについての教育など）を充実させる」、「被害者の相談窓口や保護施設を充実させる」となっています。

H 男女共同参画社会づくりについて

●男女共同参画社会を進めるための事業の認知状況【問35】

- ・「市政だよりで男女共同参画に関する記事を掲載」が約3割となっていますが、「知っている事業はない」が約5割を占めています。

●八尾市男女共同参画センター「すみれ」の認知状況【問36】

・「知っている」が7.7%で、女性は8.1%、男性は7.2%と、女性の方が高くなっています。

●八尾市男女共同参画センター「すみれ」の利用の有無【問36-1】

・「利用したことがある」が10.9%で、女性は18.0%、男性は0%となっています。

●八尾市男女共同参画センター「すみれ」を利用したことがない理由【問36-2】

・「特に利用する必要がない」が最も高く、次いで「何をしているところかがわからない」となっています。

●男女共同参画を進めていく上で、行政（国・府・市）が力を入れるべきだと思うこと【問37】

・「男性も女性も労働者が、仕事と家庭の両立をできるように支援する」が最も高く、次いで「採用・昇進・賃金など、就労の場における男女格差をなくす」となっています。